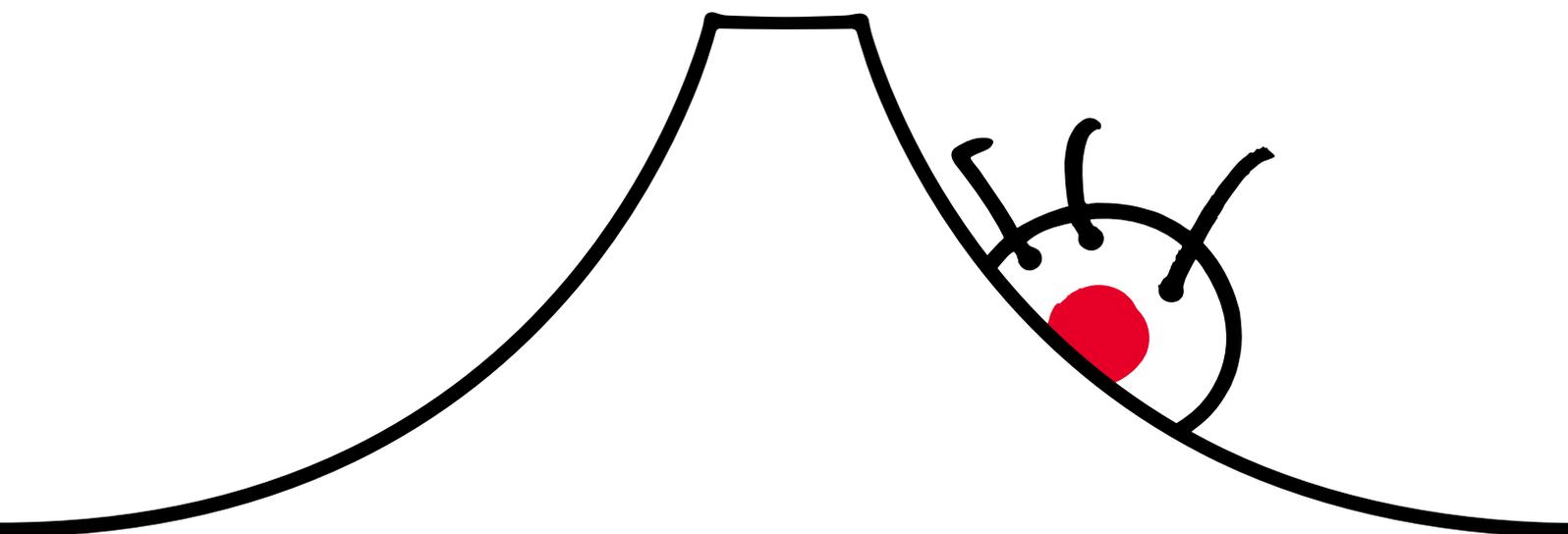


フジテレビ
CSRレポート
2017

FUJI TELEVISION CSR REPORT 2017



CSRスローガン

**わたしたちにできることを、
もっと、もっと。**

私たちの原点は放送です。

テレビを通じて国内外で今、起きていること、

日々の暮らしに役立つ生活情報、

笑いや楽しみ、感動を届けること。

それがメディアの役目。

番組・エンターテインメントを通じて人と人とをつなぎ、

そこに夢や希望が生まれ、

明るい未来への懸け橋になれば…

CSR活動も本業を活かし、

フジテレビらしさを大切に

「わたしたちにできることを、もっと、もっと。」

編集方針

本報告書はフジテレビが2016年度に行ったCSR活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる活動を行ってきました。活動内容はホームページを通じて随時公表していますが、本報告書はより読みやすく、みなさまにご理解頂きやすいよう編集し、まとめたものです。ホームページと合わせてご覧頂ければ幸いです。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

ご意見、ご感想などございましたら是非お寄せ下さい。

フジテレビ放送文化推進局 CSR推進室

✉ csr.ss@fujitv.co.jp

●対象範囲

本報告書における対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績は、フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものも掲載しています。

●対象期間

2016年度(2016年4月1日~2017年3月31日)

●参考ガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)

「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版(G4)」



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

本報告書では、2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals=SDGs)の17の目標に関連する活動にアイコンを付けました。

※SDGsの詳細につきましては38ページをご覧ください。



トップメッセージ Top Message

亀山千広 | 株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長
President and Chief Operating Officer

フジテレビにCSR推進室ができて10年が経ちました。

当初は勉強会を開いたり、清掃活動・朗読イベントなどを実施したり、社内に向けた理解促進などを進めていましたが、5年目の2011年に起きた東日本大震災は、CSR活動に対する考え方を大きく変えました。現地へ出向き、地元へ寄り添いながら“フジテレビらしさ”を活かした必要な支援を模索していく形へとシフトしたのです。

それが今も継続している「ずっとおうえんプロジェクト」です。
テレビの使命、そして武器である「正確な情報発信」と「人を楽しませるエンターテインメント力」を最大限に活用して、リアルなコミュニケーションを地域社会と行っています。

そんな中、2016年4月、熊本地震が発生しました。

この時、CSRプロジェクトチームは、これまで培った人脈、社内の密なコミュニケーションを通じて、被災地のニーズに合った活動、支援をスピーディに行いました。
このことは、のちに総務省の中央非常通信協議会から表彰を頂きましたが、これまで私たちが行ってきた地道な活動が評価されたということでもあり、現地で触れ合う方々の笑顔とともに、嬉しい励みとなりました。

こうしたひとつひとつの経験が積み重なり、10年の年月を経て、
一歩一歩フジテレビがめざす“CSRの形”ができつつあるように思います。

本報告書は2016年度、こうした災害に遭われた方々、子どもたち、学生のみなさん、その他たくさんの人たちと実際に触れ合った活動の記録です。

CSR活動は、私たちが“社会と共に歩んでいく”ために、本業である放送と並ぶ大切な両輪です。
これからも「わたしたちにできることを、もっと、もっと。」をスローガンに、変わらず“明るく楽しい、正確で安心な”喜びや感動、情報をお届けし、みなさまの暮らしに寄り添ってまいりたいと思います。

亀山千広

CSRの取り組み

CSR活動方針

フジテレビでは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006(平成18)年6月からCSR専門部署を設け、多岐にわたるCSR活動を行っています。

映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて人々に楽しさ、感動を与え、放送文化に寄与するという社会的使命を認識し、それにより世の中の社会課題の解決につなげていくことを目標としています。

CSR推進体制

社長を委員長とする「CSR推進会議」の体制は右記のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を年に一度開催し、年度の活動報告ならびに次年度の活動計画を審議しています。



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビのCSR活動の軸となっているのは、各局から選抜されたCSR推進会議プロジェクトメンバーです。月に一度、活動報告や情報交換を行う会議を開催している他、週1回の分科会で新しい企画を検討、“ボトムアップ型”のCSR活動を実施しています。またメンバーを毎年入れ替え、社内のCSRに対する理解の浸透を図っています。



私たちが めざすもの

Our Mission

番組・映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて、
見る人に感動や笑い、情報をお届けします。

私たちの強みを活かし
“フジテレビらしい”取り組みで
社会課題の解決をめざします。

大切にしていること

Materiarity

4つの柱

子どもたちのために
社会のために
環境のために
災害復興支援

CONTENTS

巻頭座談会

真に求められる復興支援のあり方とは
～現地の担当者から生の声を聞く～ 05

熊本地震 復興支援活動まとめ 09

未来を創る若い世代のために

アナウンサーによる出前授業「あなせん」 11
食育出前授業「ハロー!どっこくん」 13
“伝える力”で自立支援 14
難病と闘う子どもたちを支援 14
次世代のクリエイターを発掘・育成 15
未来のアスリートを育成 15

社会のために

パラスポーツの魅力を番組等で発信 16
人権・障害者理解のために 17
テレビ・映画等におけるバリアフリー 18
ダイバーシティ社会をめざして 19
地域社会とともに 20
FNSチャリティキャンペーン 21
高松宮殿下記念世界文化賞 他 22

環境のために

地球温暖化防止のための取り組み 23
3本の矢キャンペーン 24
リサイクル・省資源への取り組み 24
環境美化活動 25
地球環境大賞 26

災害復興支援・BCP対策

「ずっとおうえんプロジェクト」 27
その他の復興に向けた取り組み 28
災害報道 29
国民に安心・安全を届けるために 30

視聴者とともに

31

人材育成と職場環境

32

マネジメント

人権について 33
コーポレート・ガバナンス 33
コンプライアンス等 36

第三者意見

37

真に求められる復興支援のあり方とは

～現地の担当者から生の声を聞く～



熊本・嘉島町町民課 樋口課長を囲んで

2016年4月に発生した熊本地震の被害を受け、これまでに7回(2017年3月末現在)現地へ出向き、復興支援の取り組みを行ってきました。部署の異なる社員たちがそれぞれが持つ力で「被災地のためにできること」を考え、実行した活動について、現地の復興支援を担う嘉島町町民課の樋口課長をお招きし、その意義や、求められる被災地支援のあり方について語り合いました。



モデレーター
青柳 光昌氏
Mitsuaki Aoyagi

日本財団ソーシャル
イノベーション本部
日本財団で被災地支援に携わり、
東日本大震災の復興支援の統括
責任者。熊本地震でも東京側の
統括責任者を務めた。

青柳 本日は、フジテレビが2016年度に行った熊本地震復興支援について振り返りながら、本当に求められている支援等について、嘉島町の樋口課長とともに座談会形式を進めてまいりたいと思います。まずは、樋口さん、お忙しい中ありがとうございます。1年経った現地の状況はいかがですか？

樋口 4月14日の前震と16日の本震で、嘉島町は全世帯の72%が地震による何らかの被害を受けました。町民課が避難所を担当しまして、当時は600人が避難していたんです

が、その後仮設住宅に542人、みなし仮設住宅に377人の方が入居できましたので、嘉島町の避難所は2016年8月31日をもってすべて閉鎖することができました。

今では、被災家屋の解体が順調に進み、88.6%の解体が終了して空き地が目立つようになりました。早いところは新築も完了し、新居で過ごされています。



ゲスト
樋口 学さん
Manabu Higuchi
熊本県 上益城郡 嘉島町 町民課長

テレビが見たい

青柳 高橋さん(CSR推進室)、今回熊本の地震が発生したとき、まず最初に社内ではどのような動きをしたんですか？

高橋 CSRプロジェクトチームメンバーは毎週集まって企画提案などを行っているんですが、この時は4月19日に臨時で可能な人だけ集まって、情報を持ち寄りしました。20人くらい来て、そこには既に現地を見てきたアナウンサーや報道の人から色々な意見が出る中で、避難所で「テレビが見たい」という声があると。テレビ離れが叫ばれる中「テレビが見たい」なんて言ってもらえるんだ、とまずは「テレビを届けよう」ということになったんですね。物資が届かなかった東日本大震災の時に比べて、今回は物資は比較的届いているように見えたので、それ以外で何が求められているのか、ニーズに合わせた支援を行いたいと思いました。そこで技術のCSRメンバー安孫子さん(送信技術部)がすぐに動いてくれました。

安孫子 そもそも避難所にはNHKがテレビを設置していると聞いていたので、テレビがない場所があると聞いて、まず「え、ないの？」から始まったんですね。フジテレビはテレビ本体を作る会社ではないの

で、とりあえず自分の部署内で持っていけるテレビはないか探しました。あと災害放送ばかりになると娯楽に飢えてしまうので、ビデオデッキもDVDとともに現地に持って行こうということになりました。

青柳 簡単に聞こえますが、大変だったんじゃないですか？

安孫子 この話をすると、テレビをたった2台しか持っていかなかったの？と時々言われますが、その2台が大変なんです。本当は新品の方がいいんでしょうけど、福岡などで調達するにしても本当に希望のものが買えるのかなど心配でした。

ニーズに合った支援

青柳 災害が起きた時、会社としてどういう支援をするか、あらかじめ決めていたんですか？



高橋 愛
Megumu Takahashi
フジテレビ放送文化推進局
CSR推進室

高橋 いえ、それはニーズに合わせて行うことの大切さを東日本大震災の時に痛感しましたので、その都度、現地の状況を見ながら考えています。当時、必要な物資を送ろうとある保育園に電話をしたら「ただ送り付けられても本当に困るんだよね」と

言われたんです。必要のないものがどんどん来て園長先生がお怒りの時に電話しちゃったみたいで、「何か必要なものがあれば送りますが」と伝えたら、「それが一番ありがたい」と言われたんです。あとは「普段の生活に近くて楽しいことをしてくれるのがうれしい」とも言われました。「日常とかけ離れた特別すぎることをやってもらうと、その場は楽しくても終わったあとにドーンときてしまい、落差が辛い」と聞いて「なるほど」と思いました。

青柳 そういう意味では、普段日常的に生活の中にテレビはありますからね。

自己完結させることの大切さ

安孫子 はい。あと、テレビをただ送ればいいのか、ということではなくて、普通は電気屋さんがアンテナを設置してくれてそれで初めて見られるようになるわけですから、ただ

送って設置作業は現地で行って下さいというのは、現実的じゃないと思ったんです。あの時、現地から「パッケージで来て下さい」と言われたんですね。つまりそれは、すべてみなさんと完結させて下さい、そうじゃないと意味がない、ということだったんです。

青柳 まさにそうなんです。緊急時の場合は“パッケージ”、自己完結できる形で行かないとうまくいかないことが多いですね。そうしないと逆に現地のリソースを使ったり、仕事を増やしてしまいますから。それで樋口さんにたどり着いてテレビを設置したと。

樋口 はい。指定避難所に設置して頂きました。電波が入る場所を探してくれて、テレビ台もなかったので、みなさんがいない段ボールをうまく組み合わせて丈夫な台を作ってくれて……。娯楽が本当になかったのでDVDも和みましたね。あと普通のテレビ番組を見ていると地震速報がすぐに画面の上になるので、情報も得られました。

青柳 そのあとはどんな活動を？

高橋 5月30日に、バレーボールのグッズを中学校のバレー部に届けました。ちょうどその時オリンピックの世界最終予選が近かったので、バボちゃん(バレーボールのキャラクター)も一緒に連れて行きました。当時、中学校の体育館は使えなかったの、部員は外で練習していたんです。Tシャツやタオル、さらに全日本女子の選手にボールにサインをもらって、それもサプライズでプレゼントしました。

樋口 泣いていましたね。バレー部の子たちも避難所でずっとボランティアをしてきていたので、顔見知りの子ばかりで……。みんな「いいことすれぱいい



安孫子 信明
Nobuaki Abiko
フジテレビ総合技術局 送信技術部

ことあるね！」ってすごく喜んでいました。

青柳 バラエティ番組を担当している山本さんは、一流シェフと炊き出しをやったんですね。

心を満たす温かい食事

山本 はい。もともと『アイアンシェフ』という番組は2012年に放送していたんですけど、その前の年に東日本大震災があって、シェフたちは自主的に炊き出しなどを行っていたんですね。私もシェフと一緒に、何かしたいと思っていました。

私は食べることが大好きで、人間、お腹空くとイライラするじゃないですか。それで些細なことでケンカも起きる。美味しいものを食べるとハッピーになるし、心が満たされて笑顔になるので、そういうことができないかなあとCSRに相談したら、現地では「避難所の食事は汁物が少ない、あったかいものが食べたい」という声があると。

樋口 避難所の食事は、パンやお弁当が多いですからね。

山本 年齢構成、普段どんなものを食べているかなどの情報を教えてもらって、それをもとに栄養面も考えました。せっかくだったら美味しく食べて欲しいので、シェフと試作品を作って、何度も打ち合わせしました。

青柳 シェフは何人行かれたんですか？

山本 3つのレストランから、5人のシェフが行きました。イタリアン、フレンチそしてラーメン。社員は複数の部署から16人。私は準備のため前日入りし、給食センターをお借りして、そこでセンターのみなさんがすごく協力してくれました。

樋口 給食センター調理員と町から栄養士を派遣したら、ノリノリでしたよ。膨大な量の玉ねぎを切ったり…本当に楽しかったみたいです。

青柳 味はどうでしたか？

樋口 それはもう、めっちゃ美味しかったです。長蛇の列でした。おばあちゃんたちも笑顔で、部活終わりの

男の子たちも何度もお代わりしていました。

山本 ほとんどの方が全種類並んでくれて…約800食提供しました。

高橋 私たちがテレビを設置した場所だったので、その前に集まってテレビを見ながら食べている方もいて、その光景は目に焼き付いています。

青柳 渡辺さん(編成部)は、フジテレビの代表的なコンテンツ『サザエさん』を被災地で上映したんですね。

人気アニメで安心を届ける

渡辺 僕自身が熊本出身で、熊本のために何かしたいと思っていました。そうしたら去年の7月から『サザエさん』担当になって、それでCSRと協力して8月に西原村と御船町で大型スクリーンでサザエさんが熊本を旅するスペシャル編(2011年放送)を上映しました。サザエさんも東京から連れて行き、一緒にサザエさんの歌を歌ったり、グッズをプレゼントしたり。3月はサザエさん一家が福島県を旅行するスペシャル編を流しました。

青柳 お客さんの反応はいかがでしたか？

渡辺 8月と比べて3月の方が表情がだいぶ明るくなっていましたね。それからやっぱり『サザエさん』という作品そのものが普段通りの日常の家庭の姿を描いて、日曜の6時半は『サザエさん』を見るのが習慣になっている、そんなコンテンツだからこそ震災後の非常時にその時間だけでも日常に戻ることができたというか、すごく安心を届けられたのかなと思います。

青柳 『サザエさん』は、日常…なるほど。

渡辺 47年間続いているアニメなので、年配の方々にも「来てくれてありがとう」と喜んで頂きました。

青柳 今、4つの支援活動を振り返ったんですが、それ以外には？



山本布 美江

Fumie Yamamoto

フジテレビ制作局第二制作センター「バイキング」担当



渡辺 恒也

Koya Watanabe

フジテレビ編成局総合編成センター「サザエさん」担当



高橋 食育の出前授業「どっこくん」(13ページ参照)を八代市と嘉島町にお邪魔して幼稚園と保育園で実施しました。また1月には、宇土市で開催したテレビ熊本のイベントでも、食育イベントをやらせて頂きました。

青柳 樋口さん、こうした支援活動の前後で、住民の方々に変化はありましたか？

樋口 ありますね。みんな明るくなるんですよ。来た後は表情が違うんですよ。笑顔があります。

青柳 フジテレビはラッキーだったと思いますよ。嘉島町に樋口さんのようなキーマンがいらっちゃって、その方にたどり着けたので。現場が混乱する中、支援の申し出は色々なところからあったと思うんですけどそこを冷静にうまくさばくのは、なかなかできることではないです。「受援力」(=支援を受け入れる力)があるという言い方をするんですが…

樋口 4月、5月は記憶がないんです。いつ寝たかな？という感じ。ちょうど4月で職員が変わったばかりの時に、地震が発生したから大変でした。有難かったのは静岡県が行政の応援団として来てくれたんですね。福島県からも。彼らはノウハウも持っていてそれを惜しみなく出してくれるんで、本当に助かりました。

生活に潤いを与える支援

青柳 災害が起きて第一には「命を守ってインフラを復旧させる」というのが行政が一番最初にやるべきことですけど、フジテレビが今回やったことはそこじゃなくて“生活の潤い”の部分じゃないですか。テレビで娯楽を提供しようとか、美味しいものを届けたいとか、普段生活していたら何気なくそれをやっているんですけど、行政としては実はそこは、わりと後回しになってしまうんですよ。でもそれを後回しにしないでそれも現地の責任者として受け止めて、色を付けていったというか……うまくコーディネートされたと思います。

高橋 東日本大震災後、3月30日に南三陸に入ったら体育館の中に大量に届いた物資があって、人が外

に寝ているという状況を見たんです。なぜこんなに寒い中“人が外”で“物資が中”なんだと思いました。が、物資をさばく余裕すらないんだなと。

樋口 善意なので断れないんですよ。また24時間全国から来るんです。夜中の3時に到着するので、受けをお願いします、とか。

青柳 例えば、メディアの役割として「今現地で何が必要か」「個人的な支援はご遠慮下さい」などテレビを通じて発信することは、意味があるんじゃないですか？

樋口 それは助かります。

高橋 確かに重要なことですね。

青柳 フジテレビの支援の良いところは、きちんと情報を整理してニーズを把握してその上で何をやったらいいかを決めていた、あと自分たちのできる範囲で肩肘はらずにやっているということ。大量にずっとやり続けているわけではなく、タイミング、タイミングでやっていて、いい意味でもあまり無理されてないので続くんですよ。たぶん今後も東北も含めて継続されるんだろうなあと、思います。

樋口 あと、コミュニケーション力、タイミングがいいんですね。今日は電話がありそうだね～というとかかってくる。サザエさんとかキャラクターが来るのは嬉しいし、そこに笑いが生まれるんですね。親しみがわいて、帰られた後もあったかみが続くんですよ。

青柳 そこに生まれるのは自然な笑いなんじゃないかな。サザエさんは日常だから。非日常すぎるとサッと引いてしまう。支援する方の自己満足になってしまっただめなんですよ。今後もフジテレビの活動に期待します。

みなさん、今日はありがとうございました。

Fin

熊本地震 復興支援活動



フジテレビCSR推進プロジェクトチームでは、2011年から継続している被災地復興支援「ずっとおうえんプロジェクト」の一環として、熊本地震の復興のお手伝いを重点的に行いました。

5月

テレビを届けました

「テレビが見たい」という要望を受け、熊本県阿蘇郡西原村と嘉島町の避難所2ヶ所にテレビ・DVDデッキ・DVDを届け、アンテナを設置しました。



この「テレビを届けた活動」が、娯楽番組を通じたストレスの軽減や、情報孤立回避等につながったとして、総務省・中央非常通信協議会より表彰を受けました。



フジネットワーク サザエさん募金



「サザエさん募金」を立ち上げ、放送やホームページを通じて支援を呼びかけました。
[実施期間：2016年4月18日から5月31日]

©長谷川町子美術館

募金総額

1億7,262万8,295円

全額を日本赤十字社へ義援金として寄付しました。

5月

バボちゃんとともに バレー部を訪問



上益城郡の中学校女子バレーボール部3校を訪問。女子バレーボール日本代表のサイン入りボールとバボちゃんグッズ計100点以上を届けました。



熊本地震発生

2016年
4月14日夜
震度7

16日未明
震度7

4月19日
CSR 緊急会議

5月2日

5月30日

6月

アイアンシェフによる炊き出し

嘉島町の避難所で『アイアンシェフ』出演のフレンチ、イタリアン、ラーメンの一流シェフが温かいお料理約800食を提供しました。



ハヤシライス



カレークリームパスタ



潮薫醤油ラーメン

CSRメンバーや藤村アナ、榎並アナ他
社内各部署から16人が活動に参加

ネットニュース「ホウドウキョク」でも
炊き出しの様子を生中継



熊本城修復のため ドローン映像を 無償提供



フジテレビが上空からドローンで撮影した熊本城の映像に、石垣などが詳細に映っており、「熊本城の修復が年単位で早まる可能性がある」との専門家の声を受け、すべての空撮素材を無償提供しました。
(この映像は2013年にANAの機内オリジナル上映番組のために撮影したものです)

8月 3月

サザエさん上映会

8月と3月に上益城郡御船町と阿蘇郡西原村、熊本市内の城東小学校にて、アニメ『サザエさん』の特別編を大型スクリーンで上映しました。上映後は“サザエさん”も登場し、みんなで「サザエさん」の歌を大合唱♪グッズもプレゼントしました。



8月はサザエさん一家が熊本を旅する特別編を上映



©長谷川町子美術館



11月 1月

ハロー!どっこくん

八代市の保育園、嘉島町の幼稚園、「こども博」のステージでかっこのいうんちと仲良くなるための食育出前授業を開催しました。



6月12日

8月18・19日

11月10日

2017年
1月28・29日

3月19・20日



未来を創る 若い世代のために

子どもたち・若者は未来を担う大切な宝です。
私たちは若い世代を社会全体で大切に育て
明るく健康な成長をサポートしたいと
願っています。



アナウンサーによる出前授業 「あなせん」プロジェクト

“伝えるプロ”が

出前授業を通じて子どもたちの
コミュニケーション能力の向上に貢献

「あなせん」(=アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした出前授業です。子どもたちのコミュニケーション能力の向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、ここ数年はキャリア教育の要素も盛り込み、ニーズに即して発展させてきました。

実施エリア
フジテレビ放送圏内
(関東1都6県)



私たちが大切にしているのは
Face to Faceのコミュニケーション
「伝え合う力」は「生きる力」に
つながると信じて11年間活動を継続

近年、携帯やスマートフォンなどの普及により、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。話し方、聞き方、伝え方の「コツ」を現役のアナウンサーが教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会を提供しています。



対象:小学校3年生~6年生
講座内容:[スピーチ][インタビュー][音読]
「あなせん」ホームページ <http://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>

技術チームや他団体とのコラボレーションによる発展的な取り組み

- 夏のイベント「みんなの夢大陸」と春休み期間中に技術チームとコラボした体験イベントを実施



本物のカメラに大興奮!

中継車試乗体験

- 東京文化会館のアウトリーチに参加

- 技術チーム単独の授業も!



木管五重奏と朗読のコラボレーション
「くるみ割り人形」



千葉市美浜区の真砂西小学校で、「テレビ技術の仕事」と題した出前授業を実施。
カメラ、音声機材等に触れて子どもたちは大喜び!



● 2016年度 開催実績

大田区立矢口東小学校
ケイ・インターナショナルスクール東京
福島県立ふたば未来学園高等学校
横浜市立都田西小学校
福島県立遠野高等学校
豊島区立目白小学校
葛飾区立鎌倉小学校
品川区立日野学園

千葉市立真砂西小学校
江東区立第七砂町小学校
江東区立東陽小学校
羽生市立井泉小学校
小平市立小平第五小学校
江東区立枝川小学校
府中市立住吉小学校
千葉市立轟町小学校



港区立芝小学校
港区立芝浦小学校
品川区立豊葉の杜学園
品川区立浜川小学校

子どもたちから
届いた
お礼の手紙

イベントでの実施 8月「お台場みんなの夢大陸」(4回) 3月「フジテレビで遊ぼう!」(5回)

2016年度 **20**ヶ所 約**2,270**人 (イベントでの開催分は含まず)

2005年からの累計 **193**ヶ所 約**13,970**人

社会のために

環境のために

災害復興支援

視聴者とともに

人材育成と職場環境

マネジメント



子どもたちの明るく健康的な育ちをサポート

食育出前授業

「ハロー！どっこくん」



子どもたちに食の大切さを伝える楽しいイベントを全国展開

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん体操」などで構成された楽しいプログラムです。2010年にCSR活動の一環としてスタートし、全国で実施しており、2016年度は鹿児島県、熊本県、岡山県、新潟県に初めて何うなど活動は全国に広がっています。



手作りの「どっこくん」をかぶって体操！

2016年度は **18**ヶ所に伺い

約 **2,260**人の子どもたちと出会いました！

● 2016年度 開催実績

- 鹿児島県 すこやかふれあいフェスティバル
- 愛媛県 一宮市立浅野保育園
- 新潟県 いぶき保育園
- 新潟県 新潟県立自然科学館
- 岐阜県 垂井西保育園
- 岐阜県 垂井東保育園
- 岩手県 花巻市立花巻幼稚園
- 岩手県 花巻市立南城保育園
- 沖縄県 西原幼稚園
- 沖縄県 鏡原保育園
- 熊本県 わかみや保育園
- 熊本県 嘉島幼稚園
- 東京都 ベイエリアKIDSフェスタ
- 岡山県 ちとせ保育園
- 岡山県 ポストメイト保育園
- 石川県 金沢学園幼稚園
- 石川県 川上幼稚園
- 熊本県 子育てすくすくこども博



嘉島幼稚園
より
お礼のお手紙



オリジナルホームページも充実！
「どっこくん体操」や「快ウンおみくじ」がスマホ・タブレットからも楽しめます。出前授業のお申込みもこちらからどうぞ！

●「ハロー！どっこくん」
ホームページURL
<http://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>

これまでの合計 (2010年2月～2017年3月)

139ヶ所に伺い 約 **15,410**人を対象に実施

“伝える力”で自立支援

児童養護施設の子どもたちをアナウンサーが直接指導

「カナエール」

児童養護施設退所後、夢の実現のため進学をめざす子どもたちのためのスピーチコンテスト「カナエール」(企画・運営:NPO法人ブリッジフォースマイル)の活動を2012年からサポートしています。「カナエール」はスピーチコンテスト出場を通じて、子どもたちのコミュニケーション能力を向上させ、ボランティアの方たちなど様々な大人との交流の場を持たせる奨学金制度です。18歳、19歳の子どもたちが思い描く未来の自分の姿・・・その職業をめざすきっかけ、自分たちの過去についてなどをできるだけわかりやすく、伝わりやすいように、発声・滑舌練習、言葉の言い回し、間、抑揚まで現役アナウンサーが指導していきます。5月下旬から指導をはじめ、6月18日の横浜大会／6月25日の東京大会を無事終えました。



スピーチの指導をする梅津弥英子アナ



420人を前に堂々とスピーチ

● ブックフォースマイルを通じた寄付も行っています！

不要になった書籍などを児童養護施設の子どもたちの支援に充てる取り組み「ブックフォースマイル」に協力しています。
2016年度は、1,172冊を寄付し、71,726円が支援に充てられました。



難病と闘う子どもたちを支援

「そらぷちキッズキャンプ」

フジテレビでは「そらぷちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年から朗読会や食育イベント開催などで支援を行っています。また「そらぷちキッズキャンプ」は「東京マラソン」チャリティランの寄付先にもなっており、フジテレビが中継を担当する年は放送を通じて活動を紹介するとともに、沿道で応援する過去のキャンプ参加者をサポートしています。

2017年1月には、5家族17人が参加する冬のキャンプで奥寺健アナウンサーによる朗読会を開催しました。



2017年1月28日の朗読会の様子

● そらぷちキッズキャンプとは？

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。小児がんや心臓病などの難病と闘う子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごせるようにとつくられました。



次世代のクリエイターを発掘・育成

若い世代の放送文化への興味と理解を広げ、次世代のクリエイターを育てる取り組み

「第28回ヤングシナリオ大賞」

ヤングシナリオ大賞は、次世代のシナリオライターを発掘・育成することを目的として1987年に設立されました。第28回は1,602編の応募があり、数次にわたる選考を経て11月30日に大賞1人・佳作3人を発表。大賞を受賞された小島聡一郎さんの作品『ぼくのセンセイ』が映像化され、12月25日にドラマ『俺のセンセイ』として地上波（関東ローカル）で放送されました。この賞をきっかけに数多くの作家が世に出ています。ドラマ制作の裾野を広げる一助となるよう今後も活動を続けていきます。



「第3回ドラマ甲子園」



高校生のための演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、執筆した高校生本人の演出で、テレビドラマ化されるという夢のあるプロジェクトです。第3回ドラマ甲子園大賞受賞作品『変身』は初の男子高校生監督の誕生でした。また今回は監督の母校・筑波大学附属駒場高等学校で撮影が行われ「フジテレビTWOドラマ・アニメ」で放送されました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。



未来のアスリートを育成

「春高バレー」

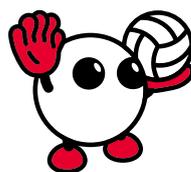
「全国高等学校バレーボール選手権大会」として高校バレー日本一を決定するこの大会を日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟とともに主催し、全試合をテレビ中継制作し放送しました。地上波での放送、及びBSフジでの決勝ハイライト放送、そしてCS放送ではフジテレビONE / TWO / NEXTで1回戦から準決勝までの男女全96試合を生中継。さらに準決勝までの全試合をインターネットでライブ配信[※]し、決勝戦も試合当日に配信を行いました。2020東京五輪へ、新たなスター誕生の期待感も含めた「春の高校バレー」をより多くの視聴者にお届けすることで、バレーボールの普及・発展、及び次世代アスリートたちの育成に貢献しています。

※フジテレビONEsmart / TWOsmart / NEXTsmart+特設チャンネル



「バボキャラ」

バレーボールコーチングキャラバン、略して「バボキャラ」とは、三屋裕子さんを始めとする日本を代表する往年の名選手たちが、各地の拠点校に赴き、楽しいバレーボール教室を開催するものです。コーチングのレクチャーを受けた地元高校生が小・中学生に指導する形式で、東日本大震災の被災3県に対する復興支援活動としても位置付けられています。2016年度は岩手、宮城、福島その他、熊本でも開催され、各系列局協力の下バレーボールによる地域の活性化に貢献しています。



社会のために

人と人をつなぐ“メディア”として
地域社会の発展や放送を通じたコミュニケーション
人を笑顔にする取り組みなどで
あらゆる人がいきいきと暮らせる社会の実現をめざします。

パラスポーツの魅力を番組やイベントで発信！

『PARA☆DO!』

東京パラリンピックの会場を満杯にしたい!『PARA☆DO!』は、2020年に向けてパラスポーツのムーブメントを起こし、障害の有無に関係なく誰もが互いを認め合い、いきいきと生活できる共生社会の実現に向けて、パラスポーツを応援していくプロジェクトです。地上波レギュラーの番組では、アスリートやそれを支える人たちの、前向きに挑戦する姿を毎週紹介。2016年のリオパラリンピックの際には、司会にマツコ・デラックスを起用し、パラスポーツの新たな魅力を引き出した特番を放送。また、パラリンピックメダリストたちに直接触れ合えるトークイベントを開催するなど、今後もパラスポーツの気運醸成のための様々な展開をしていきます。

● マツコ・デラックス司会の特番も放送!

『リオ2016パラリンピック
開幕直前SP
～マツコが全力応援宣言!
みんな凄じやないのDX～』
[2016年9月2日
23:00～23:58放送]



PARA☆DO!

レギュラー番組で魅力を紹介!

毎週水曜日22:54～23:00放送
(関東ローカル)

PARA☆DO! ポータルサイトでは、アーカイブ、SNS、
ライブ配信なども展開
<http://www.fujitv.co.jp/sports/parado/index.html>



Photo: Kenji Kinoshita

● パラスポーツのイベントを毎月開催!

PARA☆DO!トーク&ライブ
パラリンピアンたちのトーク
ショーやパラスポーツ体験企
画、PARA☆DO!アーティスト
による音楽ライブなどを実施



- | | |
|------------|----------------|
| 第1回 高桑早生選手 | 第7回 別所キミエ選手 |
| 第2回 山田拓朗選手 | 第8回 廣瀬隆喜選手 |
| 第3回 池崎大輔選手 | 第9回 廣瀬悠選手・順子選手 |
| 第4回 西崎哲男選手 | 第10回 安達阿記子選手 |
| 第5回 鈴木徹選手 | 第11回 木村敬一選手 |
| 第6回 道下美里選手 | |



人権・障害者理解のために

社員・スタッフを対象に人権への理解を深める勉強会を開催

「人権カレッジ2017」

人権についての正しい理解や知識を得ることで、番組制作に活かそうと、専門の講師を招き勉強会を開催しました。[2017年2月6日・2月14日・2月21日]

● 第1弾 部落問題について

近畿大学人権問題研究所主任教授 北口末廣氏

● 第2弾 LGBTについて

LGBT総合研究所 代表取締役社長 森永貴彦氏
渋谷区男女平等・ダイバーシティ推進担当課長 永田龍太郎氏
・ネットニュース「ホウドウキョク」LGBT LIFE とも連動

● 第3弾 障害者理解

日本障害フォーラム 原田潔氏
NHK Eテレ『バリバラ』ご意見番 玉木幸則氏
『バリバラ』元プロデューサー 日比野和雅氏



第1弾 部落問題について



第2弾 LGBTについて



「ふくのわプロジェクト」に協力

11月29日「いいふく」の日に、フジテレビ1階シアターモールで衣類回収イベント「ふくのわプロジェクト」(産経新聞社主催)を開催しました。このプロジェクトは、着なくなった衣類を専門業者に買い取ってもらい、その収益金を日本財団パラリンピックサポートセンターに寄付してパラスポーツの発展に活用するというもので、社員や近隣企業そして地域住民の方々がたくさんの古着を持ち寄りました。[回収した衣類 計864.1kg]

(協力:フジ・メディア・ホールディングス)



「ドーナツツセミナー」を開催

様々なゲストを囲んでお話を伺い、知識を深めるセミナーを開催しています。

2016年

4月21日 だれでも楽しめるおもちゃ=共遊玩具とは?
株式会社タカラトミー 吉田沙也加さん

11月16日 聴覚障害者への理解促進
HAPUNE代表 佐藤万美さん

2017年

3月13日 SDGs(持続可能な開発目標)について
国連広報センター所長 根本かおるさん

「ホウドウキョク」で社会課題を発信

2015年4月から始まったネットニュース「ホウドウキョク」のCSRコーナー“OH! DIVERSITY”を通じて様々な社会課題を発信しています。



国連ウィメン日本協会への寄付

途上国を中心に世界中の女性に教育と労働の場を!と活動する国連ウィメン。SDGsの目標のひとつ「ジェンダー平等」な世界を目指し女性のエンパワメントを行う同協会を支援しています。

テレビ・映画等におけるバリアフリー

字幕放送

7時～24時のほぼすべての収録番組[生放送以外の番組]に字幕を付与

字幕放送とは、主に聴覚障害者や高齢者などテレビの音が聞こえにくくなった方々にテレビ番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を[文字]にして画面に表示する放送のことです。ドラマのセリフやバラエティ番組のトーク部分はもちろんのこと、携帯電話が鳴る音などの効果音も字幕で表示し、番組内容を十分ご理解頂けるようにしています。生放送番組については、ニュース、情報番組を中心に[生字幕=ほぼリアルタイムで字幕をつけること]の付与を進め、さらに難易度が高い生放送のバラエティや、長時間に及ぶスポーツ中継などについても積極的に字幕を付けています。



字幕放送

詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.fujitv.co.jp/company/action/jimaku.html>

2015年度実績

付与可能時間に対して総務省が定めた目標値 96.8% → **フジテレビの付与実績 99.7%**
総放送時間に対して総務省が定めた目標値 52.1% → **フジテレビの付与実績 57.2%**

解説放送

解説放送は主に目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行うものです。セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう促進に努めてまいります。

● 解説放送付与番組

『ワンピース』『はやく起きた朝は…』
『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』
『MUSIC FAIR』、金曜や土曜の単発ドラマや邦画など

2015年度実績

付与可能時間に対して総務省が定めた目標値 7.09% → **フジテレビの付与実績 10.01%**
総放送時間に対して総務省が定めた目標値 3.13% → **フジテレビの付与実績 3.55%**

映画

2016年度に公開したすべての映画に、日本語字幕を付けました。

(後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕をつけています。)

また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増え、2016年度は7作品に付与しました。

「音声ガイド」とは、映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障害者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが、音声ガイドの役割です。



『海よりもまだ深く』
©2016 フジテレビ バンダイビジュアル
AOI Pro. ギャガ



『四月は君の嘘』
©2016 フジテレビジョン 講談社 東宝
©新川直司/講談社

DVDにおける字幕 ドラマをDVD化する際には、制作時に聴覚障害者向けに字幕を付けています。

CM字幕放送対応 字幕付きCMのトライアル期間が終了し、次の段階に移行すべく複数社が提供する番組での放送に向けて作業を進めています。

手話放送 『テレビ寺子屋』(毎週日曜日5:10～5:40放送)にて手話放送を行っています。





ダイバーシティ社会をめざして

「グリッター8×アウェアネスカラー」

GLITTER8 AWARENESS COLOR

社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し社会課題への支援の意志を発信しています。“知ってもらう”機会を提供し、問題解決につなげる目的で2015年4月からスタート。2年目となる2016年度はパレットタウン大観覧車や自由の女神も参加してお台場エリア全体に活動が広がっています。



● 2016年度に実施したライトアップ

- 4月 2日 世界自閉症啓発デー(ブルー)
- 9月 21日 国際平和デー 世界平和を考える(白・ピースマーク)
- 10月 1日 乳がんの予防啓発(ピンクリボン)
- 10月 16日 臓器移植への理解促進(グリーンリボン)
- 11月 1日 児童虐待防止(オレンジリボン)
- 11月 12日 世界中の女性に対する暴力の根絶(パープルリボン)
- 12月 1日 世界エイズデー(レッドリボン)
- 1月 20日 障害者権利条約が日本で発行された日(イエローリボン)
- 3月 5日 国際女性デーにちなみ妊産婦の健康を願う(ホワイトリボン)

● 一緒に点灯してくれた施設や企業

- 東京ゲートブリッジ ● ● ● ● ●
- 東京ビッグサイト ● ● ● ● ●
- レインボーブリッジ ●
- パレットタウン大観覧車 ○ ● ●
- 自由の女神 ●
- 乃村工藝社 ●

グリーンリボン点灯時は
移植医療啓発パンフレットを配布



● 放送やネットニュース・SNSとも連動



ニュース番組で放送
キャスターもブルーのネクタイを着用
(4月2日)



ネットニュース「ホウドウキョク」で
発達障害について解説
(4月2日)



『みんなのニュースWeekend』で
キャスター陣も紫の衣装を着用
(11月12日)



国連広報センターのFacebook
でも紹介されました
(1月20日)

地域社会とともに

臨海副都心(お台場)エリアは、家族連れや外国人旅行者など多くの観光客でにぎわう人気スポットです。このエリアのランドマーク的存在であるフジテレビは、地域の継続的な発展のために、イベント等を通じた集客など、魅力あふれるまちづくりに貢献しています。

夏の大型イベント「お台場みんなの夢大陸」

2016年の「お台場みんなの夢大陸」は、前年の夢大陸をさらに進化させ、全社一丸となって来場者のみなさまとイベントを作ろうというテーマで取り組みました。汗をかき楽しみながら47日間で450万人のお客さまをお迎えしました。「みんなではじける新体験！」をキャッチフレーズに、世界最大規模のデジタルアート「DMM.プラネット」や、夏に初めて雪を降らせる「アクアスノーガーデン」、先端技術で新たな可能性を見出せる「VR体験」など、みなさまに満足頂けるコンテンツを展開しました。CNN等の海外メディアからも取材を受け、外国人の方も数多く訪れ、お台場が世界中から注目されたイベントとなりました。[2016年7月16日～8月31日]



アクアスノーガーデン



DMM.プラネット Art by team Lab



ホイールや木箱などの廃材を利用して作られた居酒屋えぐざいるPARK

● 熱中症対策として“ミストマン”が冷水と笑顔でおもてなし！

熱中症を防ぐために毎年“イケメンミストマン”が活躍しています。ミスト状の水を振りまき来場者に涼しさを提供。アナウンサーを含む社員や役員もミストマンになりました。



海外からのお客さま向けに英語版パンフレットとサイトも作成！



「ダイハツ トーテム」

世界中で400万人以上を魅了してきたシルク・ドゥ・ソレイユの日本公演最新作を、2016年2月から6月までお台場で開催。51万5,000人を動員し、地域活性化に貢献しました。

[2016年2月3日～6月26日 お台場ビッグトップ]

Photos: OSA Images Costumes: Kym Barrett
© 2010 Cirque du Soleil
© 2015 Fuji Television



「The NINJA

－忍者ってナンジャ!?!－

謎に満ちた忍者の姿を学術的かつ科学的視点で学べるイベントを開催。子どもたちの夏休みの自由研究に、また外国人にも人気が高くインバウンド施策にもなりました。[2016年7月2日～10月10日 日本科学未来館]





世界の子どもたちの貧困解決にむけて 「FNSチャリティキャンペーン」



FNSチャリティキャンペーンは、“世界の子どもたちの笑顔のために”をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが、放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。40年以上に及ぶ活動の募金総額は約42億円に達しており、アジア・アフリカなど世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

● 2016年度の支援国 トーゴ共和国

第43回となる2016年度はアフリカ大陸西部ギニア湾岸に位置するトーゴ共和国を支援しました。トーゴは、人口730万人、その42%を15歳以下の子どもが占める若い国で、人懐っこい国民性から「アフリカの笑顔」とも呼ばれています。しかし一方で、世界の最貧国の一つに挙げられており、安全な水を使えない、あるいは予防接種を受けられない等の理由で、1年で2万人以上の5歳未満児が死亡しています。こうした過酷な状況の子どもたちを支援するため『とくダネ!』の山中章子アナウンサーと取材班は2週間にわたり現地を取材、6月14日と16日『とくダネ!』で放送し、協力を呼びかけました。また全国のフジテレビ系列局と共に様々な募金活動も行いました。



● 2016年度の主な活動

番組・配信による募金活動

- ・『とくダネ!』内で山中章子アナウンサーによる報告
- ・『赤土の大地で生きぬく子どもたち ～トーゴ共和国～』
フジテレビ系列局の地上波とCS・フジテレビTWO/NEXT、BSフジで放送
- ・『ホウドウキョク×GOGO』
山中アナ出演のもと、トーゴの取材映像を流し、支援を募りました。



イベントにおける募金活動

- ・山中アナによる現地取材報告講演会
- ・「ふるさと祭り東京2017」会場 全国地酒ブース
- ・「お台場みんなの夢大陸2016」でのフリーマーケット
- ・「トーテム」会場内「くるくる募金箱」
- ・その他系列各局イベント

フジテレビ製作の映画収益からの寄付

映画『ONE PIECE FILM GOLD』の収益から
総額600万円を寄付しました。

社内交流イベントによる募金活動

9月に社員食堂で、チャリティフェスタ「ちよい呑み」を開催。
九州・沖縄の系列局ご自慢の食事と地酒を販売し、売り上げ
(経費を除く)42万6,391円を寄付しました。



2016年度の最終寄付金額 4,551万198円

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

フジサンケイグループの取り組み

世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与

「高松宮殿下記念世界文化賞」

高松宮殿下記念世界文化賞

PRÆMIUM IMPERIALE

IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。

賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。これまでの受賞者数は27ヶ国、144人で、フジテレビは同賞の趣旨に賛同し、創設以来社を挙げてサポートしています。



2016年10月18日 常陸宮同妃両殿下をお迎えして明治記念館で行われた式典の様様

● 第28回受賞者(2016年)

絵画部門	シンディ・シャーマン(アメリカ)
彫刻部門	アネット・メサジェ(フランス)
建築部門	パウロ・メンデス・ダ・ホッシャ(ブラジル)
音楽部門	ギドン・クレーメル(ラトビア/ドイツ)
演劇・映像部門	マーティン・スコセッシ(アメリカ)



● 『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送

フジテレビ 2016年10月27日 24:25~24:55放送 / BSフジ 2016年10月30日 13:30~14:00放送

詳しい内容につきましては世界文化賞公式HPをご覧ください。 <http://www.praemiumimperiale.org/ja/>

日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与

「フジサンケイグループ広告大賞」

フジサンケイグループ広告大賞は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与すべく、1971年にフジテレビを中心として創設されました。賞の運営は、グループの媒体各社が中心となり、2016年4月12日に第45回贈賞式が実施されました。



環境のために

全社をあげた省エネ・省資源の取り組み、花や緑あふれる美しいまちづくりを目的とした活動を継続しています。



地球温暖化防止のための取り組み

フジテレビでは、地球温暖化防止のための温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。

東京都の環境問題対策に関する指針「総量削減義務と排出量取引制度」に沿って、より大幅なCO₂削減を定着・展開するため、第2計画期間(2015年～2019年)の削減義務率15%に向けて省エネ機器の導入やクールビズ、ウォームビズなどの対策を実施しています。

2016年度の結果として、

フジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は22,733(速報値)トンで、15%の削減目標を大きくクリアし25%削減を達成しました。

(2015年度は23%削減)

- 地球温暖化防止「クールアース・デー」環境省ライトダウンキャンペーンに参加

ライトアップ施設の消灯に2003年から参加。20時～22時の2時間、イルミネーションと外構照明を消灯しました。

[2016年度ライトダウン実施日]

・6月21日「夏至ライトダウン」 ・7月7日「クールアース・デー」

フジテレビ環境行動計画を「お台場議定書」と名付け(2007年策定)活動の柱としています。

● お台場議定書

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するのはもちろん、企業としても環境に配慮した活動を行っています。

お台場議定書 - 今、はじめよう! -

[1] 一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベントなどメディアを通じて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供を行い、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。

[2] 一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ごみ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達 の促進や省エネルギー、省資源などのエコ活動を一緒に行動していきます。

[3] 一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温室効果ガス削減やごみ分別などについて、目標を定めて活動し、その結果を公表します。さらに、世界の環境活動などの情報を提供し、地球環境保全の成果と一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めています。

3Rの取り組み



全社で地球環境改善のための取り組みを実施

「3本の矢 キャンペーン」

1. リサイクルのためのゴミ分別

オフィス内でゴミの11分別を実施。
分別率をイントラネットで開示し、協力を呼びかけている。

2. リサイクル(封筒、手提げ袋、文房具用品等の使いまわし)

3. CO₂を削減(スイッチオフによって電気の使用量を削減)

この3つを柱とした「3本の矢キャンペーン」で3Rを推進しています。



2016年度のゴミ分別率は **80.7%** と目標80%をクリアしました。

リサイクル・省資源への取り組み

全社をあげて大規模なフリーマーケットを開催

毎年、夏のイベント期間中の8月8日「フジテレビの日」に、本社屋にてチャリティ・フリーマーケットを開催しています。社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。掘り出し物を狙って、開始前からお客さまが列を作って並ぶほどの人気イベントです。2016年の売り上げは123万2,568円となり、全額をFNSチャリティキャンペーン(21ページ参照)に寄付しました。



廃棄テープのリサイクル・再利用

指定回数使用したテープを破棄する際には、データをすべて消し手作業で分解、部品ごとに仕分けしてリサイクルしています。この作業は、2000年10月からメーカーとノウハウを共有しながら行っており、磁気テープは畳の芯などになり、プラスチック樹脂は自動販売機の取り出しカバー等になって、再び私たちの生活に役立っています。

スマートワークを推進

社内の申請書や会議資料をデジタル化することで、効率化やコスト削減、ペーパーレスを促しています。
主要な会議でタブレット端末を使用するなど、省資源に貢献しています。



環境美化活動

地域の美化活動に積極的に参加しています！

お台場エリアの清掃活動を継続しています。ゴールデンウィーク前や夏のイベントの前夜などに清掃を行っている他、フジ・メディア・ホールディングス全体での合同清掃活動も年3回開催。さらに、お台場エリアに本社を置く企業からなる「東京臨海副都心まちづくり協議会」の清掃活動にも毎回参加するなど、地域の美化に貢献しています。



「花と緑のフラワーフェスタ」

～臨海副都心チューリップフェスティバル～に向けて球根植え

まちづくり協議会会員企業・武蔵野大学が一緒になって、毎年臨海副都心にチューリップの球根を植えています。これは臨海副都心まちづくり協議会の環境事業の一環として、春の「花と緑のフラワーフェスタ」に向けて行われているもので、2016年は

11月18日に実施。25社から122人の社会人と、学生192人の合計314人が参加し、青海地区に約10万球のチューリップ球根を植えました。都会にしながら季節感や華やかさを感じられる新たな景観づくりを行っています。



春にはどんな色の花が咲くのかなあ～



学生さんと楽しく球根植え！



4月にキレイに咲きました！



フジテレビからは17人が参加



フジサンケイグループの取り組み

地球温暖化防止や環境保全に熱心に取り組む企業などを表彰



「地球環境大賞」

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金(WWF)ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。2016年4月18日には、第25回目の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジテレビは、この「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。



第25回地球環境大賞の授賞式が、秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われました。

● 第25回地球環境大賞は、東京急行電鉄株式会社

二子玉川ライズ 環境認証評価LEED「まちづくり部門」で世界初のゴールド認証を取得

- ・経済産業大臣賞 YKK AP株式会社
- ・環境大臣賞 株式会社 伊藤園・凸版印刷株式会社
- ・文部科学大臣賞 特定非営利活動法人千葉大学環境ISO学生委員会
- ・国土交通大臣賞 ヒューリック株式会社
- ・農林水産大臣賞 アサヒグループホールディングス株式会社
- ・日本経済団体連合会会長賞 ECM共同研究開発チーム(代表:株式会社 竹中工務店)
- ・フジサンケイグループ賞 KDDI株式会社・東京大学・九州工業大学

詳しい内容につきましては地球環境大賞公式HPをご覧ください。
<http://www.fbi-award.jp/eco/>



大賞を受賞した東急電鉄 野本弘文社長

● 特別番組『立川志の輔のナットク! 地球環境大賞2016』を放送

受賞企業・団体の優れた取り組みをわかりやすく紹介しました。

「水と緑と光の豊かな自然環境と調和した街づくり」をコンセプトに33年間にわたり大規模再開発を行った二子玉川ライズ。自然と共生しながら心豊かに暮らせる街の様子を紹介しました。



[フジテレビ:2016年6月18日 10:55~11:50放送 / BSフジ:2016年6月26日 15:00~15:55放送]

未来を創る
若い世代のために

社会のために

環境のために

災害復興支援

視聴者とともに

人材育成と職場環境

マネジメント



災害復興支援 BCP対策

災害で大きな被害をうけた地域に伺い、
テレビ局らしいイベント等を開催することで、
被災地の“心”の復興をサポートしています。



オリジナルの被災地復興支援活動を展開

「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビ
ずっとおうえん。
プロジェクト

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続して行っています。発災直後には「こどもおうえんプロジェクト」として、物資を直接被災地に届けたり、子どもたちを対象にした食育や朗読イベントなどを実施。2012年からは、子ども以外にも支援対象を広げ、被災地を“ずっと”忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。

- 楽しいイベントを被災地の学校や幼稚園・保育園で実施



福島の高校生たちにスピーチ指導



- 2016年度 開催実績

16ヶ所 約1,740人を対象に実施

- ・高校生を対象に「あなせん」特別編を実施
6月29日 福島県広野町 ふたば未来学園高等学校
7月14日 福島県遠野町 遠野高等学校
 - ・「ハロー!どっこくん」
10月17日 岩手県花巻市 花巻幼稚園/南城保育園
 - ・ラフくんのクリスマス会
12月8日 岩手県岩泉市 こがわこども園/いわいずみこども園
- (※熊本地震の復興支援については9-10ページ参照)

2011年からの

ずっとおうえん開催累計

179ヶ所 約18,620人

(2017年3月31日現在)

その他の復興に向けた取り組み

テレビ美術の力で被災地に笑顔を

「こども笑顔プロジェクト」

フジテレビ美術制作局と美術関連協力会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地復興支援活動。2016年度は4月23日に福島県南相馬市の原町生涯学習センターで開催しました。テレビ美術の裏側を紹介しつつ、テレビの不思議コーナーや「のこぎり体験」「輪ゴム鉄砲」を作るコーナー、さらに人気キャラクターに扮して写真撮影をするなど、テレビ局ならではの企画で多くの方々に楽しんで頂きました。



● これまでの開催実績

- 2013年10月 岩手県大船渡市
- 2014年 4月 宮城県名取市
- 2014年10月 岩手県宮古市
- 2015年 4月 伊豆大島
- 2016年 4月 福島県南相馬市

(2017年3月31日現在)



のこぎり体験



バカ殿に変身!



あめガラスでできたビール瓶にビックリ!

フジ・メディア・ホールディングスで桜の苗を寄付

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

地震や津波、さらに放射能被害を受けた福島県で“30年後に子どもたちが誇れる桜並木を”との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス各社は2013年度から協賛しています。2016年度はディノス・セシールの顧客や、フジ・メディア・ホールディングス各社などから合わせて桜210本分の寄付をし、これまでの植樹本数は867本になりました。2017年1月21日にホールディングス各社から14人で現地に行き、桜の苗木を植樹しました。



植樹の様子



『SMAP×SMAP』震災の義援金・支援金募集の呼びかけを放送終了まで継続

“被災地を忘れてはいけない”という強い思いで、『SMAP×SMAP』(2016年12月末で放送終了)では、東日本大震災後の2011年3月21日の放送以降全てのオンエアで「SMAP」による支援金の呼びかけを行いました。

※2016年12月26日放送分で通算268回。(2016年度は32回放送)



災害報道

伝える責任

公共性の高いメディアであるテレビ局にとって、震災などの災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。震災報道の基本姿勢を定め、国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道などに努めています。取材にあたっては、被災した方の感情に配慮することを常に心がけ、その気持ちを理解し寄り添うことを大前提としています。

熊本地震

● 『みんなのニュース』の取材報道

熊本地震発災直後には『みんなのニュース』の伊藤利尋キャスターが約2週間にわたって現地を取材し、被災地の状況を伝えました。その際「取材して伝えること」と「被災者の気持ち」の狭間で感じた葛藤も率直に表現し反響を呼びました。その後も定期的に現地の取材にあたり、被災者はもちろん視聴者からも「ありがとう」「勇気をもらった」などの声が数多く届きました。

また、被災地の現状や災害報道の教訓を共有するための社内報告会も行いました。



伊藤利尋アナウンサーによる
現地取材報告会

東日本大震災から6年

● 『わすれない～6年目の選択～』を放送

これまで16回にわたり大震災の津波検証と被災者の記録を放送してきたドキュメンタリー「わすれない」シリーズ。17作品目となる今回は、ある選択の時を迎えた2人、津波から奇跡的に生還した少年と原発事故で避難生活を余儀なくされた少女を取材。2人が成長していく姿を通じ、改めて大震災からの6年と“復興”の意味を考えました。 [2017年3月4日 14:00～15:00放送]



2016年放送の『ザ・ノンフィクション「わ・す・れ・な・い 明日に向かって～運命の少年」』が国際的メディアコンクール「ニューヨーク・フェスティバル」で銀賞受賞

● FNN報道特別番組『日本を襲う巨大地震 忘れていないか3・11』

阪神・中越・東日本・熊本から大地震を経験した人たちをスタジオに集め、「巨大地震」とは何だったのか？そして、被災者だからこそ知る被災と復興とは何なのかを語ってもらいました。首都圏もパニックに陥った3月11日。もしも今、巨大地震が来てライフラインが止まったら？ある家族をモニタリングして専門家と検証。我々は「巨大地震」にどう向き合えばいいのか？改めて大震災から学び、考え、そして備えるための特別番組を放送しました。 [2017年3月11日 14:00～15:30放送]



国民に安心・安全を届けるために

いかなる場合も放送を継続する責任

FNN大規模災害訓練放送

系列各局と協力して毎年大規模な災害訓練放送を実施しています。2016年度は、日本海中部を震源とする大地震が発生し、最大震度7、東北、北陸、近畿の日本海側を巨大津波が襲うという事態を想定して実施。系列各局からも応援取材団を組み、小型中継機器を多用した放送をシミュレートしました。訓練で浮かび上がった問題点を分析し各局の態勢作りに活かしています。また、国民の安全を守るため地震や津波の発生時にどのような画面表記がわかりやすいのか、検討を重ねアップデートしています。

春と秋に「防災ウィーク」を実施

放送を継続することは、メディアとしての重要な使命です。そのため、2011年から「防災ウィーク」と称し、社内で働く社員・スタッフを対象とした1週間にわたる防災訓練を毎年春と秋に行っています。春・秋ともに5日間にわたって実施し、のべ900人以上の社員・スタッフが参加。災害時は会社にいる誰もが防災リーダーになれるよう、放送を継続するための実践的な訓練を行いました。また、帰宅困難者を受け入れる準備も整えています。



ニュースと災害情報をアプリで提供 「FNNニュースアプリ」

ニュースをスマートフォンで手軽に視聴できるアプリ。ニュース速報、地震や津波、避難情報、弾道ミサイル情報など緊急性の高い重要な情報はプッシュ通知でお知らせする他、気象、火山、河川氾濫や、鉄道・フライトの運行情報、ニュース、防災、ライフラインなどあらゆる情報にワンストップでアクセスできます。



災害情報を英語でも提供

外国人向けに日本語の災害情報を英語に自動変換しリアルタイムでデータ放送画面に表示しています。データ放送画面(リモコンのdボタンを押すと情報が掲示される画面)では、震度3以上の地震、津波などの自然災害の発生情報を英語で迅速に配信しています。

● 自然の脅威を伝える映像が2016年度 新聞協会賞を受賞

フジテレビ報道ヘリチームは2015年9月、鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総市に甚大な被害をもたらしている状況を撮影。上空から濁流にのみ込まれる街や家族をカメラで捉えました。この映像が2016年度の「新聞協会賞」写真・映像部門を受賞しました。日本新聞協会は授賞理由について「悪天候の中、雨雲の動きを的確に予測した取材クルーのフライト判断で、他社が到達できなかった現場に駆けつけた。記者の安全や救助活動に十分配慮し、被害状況をテレビの特性を活かしてリアルタイムで伝え、報道機関の使命を果たした」とし、高く評価されました。



視聴者とともに

自己検証番組を25年間にわたって放送

『新・週刊フジテレビ批評』

自局の番組やテレビ界に関する批評を視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組『週刊フジテレビ批評』として1992年にスタートしました。その内容は、視聴者の声や番組審議会の模様を紹介するだけでなく、バラエティやドラマ、ドキュメンタリーの制作について議論を交わしたり、4K・VRなど最新の放送技術や実験的な番組を解説、また視聴率、BPO、放送法などに関する疑問に答えるなど、テレビについて視聴者により理解してもらうことで「メディアリテラシー」の向上につながるよう番組作りを行っています。



【毎週土曜日 5:00~6:00放送】



視聴者の声を聴く取り組み

自局が放送した番組に対する視聴者のご意見は、電話やホームページからの投稿によって視聴者総合センターに寄せられます。これら視聴者からの賞賛・要望・不満・問い合わせなどは、番組制作者に直接伝える事ができる大切な“声”です。近年、若い世代のリアルな声にも耳を傾けるべく、主要番組のTwitterにも毎日目を通しています。視聴者総合センターは、視聴者のみなさまの声やご意見すべてに耳を傾けることで、テレビを見ている人が今何を思い、何をテレビに求めているのかを肌で感じながら「視聴者に寄り添う」番組作りをサポートしています。

● 2016年度に頂いた視聴者の声

お電話でのご意見	約17万5,000件(1日平均480件)
メールでのご意見	約45万件(1日平均1,200件)



番組審議会

番組審議会は、放送番組の適性を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2017年4月現在、有識者で構成された審議委員は9人。月に1回(8・12月は休会)、様々なジャンルの番組を審議対象に委員から忌憚のないご意見やご指摘を頂き、社長、担当役員、局長他、番組担当者とのディスカッション等を行っています。議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組作りに活かされています。また議事録ダイジェストを社内に共有、概要はホームページに掲載する他、『新・週刊フジテレビ批評』内でも放送し広く公表しています。

社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なリポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載や冊子の配布を通じ、社内に共有しています。

また月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。



人材育成と職場環境

人材育成

● 人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。新卒採用では、海外の大学を卒業する留学生や、日本の大学を卒業する外国人留学生の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、CG、技術部門で学生に向けた就業体験を行っています。

● 研修制度

社員ひとりひとりが、自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるような様々な研修制度やセミナーの充実を図っています。

フューチャーキャンプ

各年代の社員が参加するグループワーク研修。組織や年齢にとらわれず、未来のフジテレビのあるべき姿を社員全員が共有できる取り組みを行っています。その他、各階層で求められる知識獲得のため入社年次別研修や、専門分野の講師を招き、業務に活かせるような人事セミナーを開催しています。



働きやすさを支援する制度

社員が働きやすい職場環境を実現するために会社の制度としてサポートする体制を整えています。

● 育児支援

最大2時間までの時短を小学校1年生の5月末までの希望する期間取得できる他、養育のために小学校就学前まで休職することができます。復職の際は、スムーズな職場復帰をサポートするために先輩社員と懇談の場を設けています。ベビーシッターや学童保育などの利用には特別補助もあります。

● 復職支援

長期の傷病休職から復職する際に、円滑に復職できるよう、復職支援制度を設けています。

● 介護支援

家族に介護が必要になった場合、1年間の介護休業などを取得できます。介護用品の購入や訪問介護の利用に特別補助を行っています。

● 社員の個人的な社会貢献の支援

個人的に社会貢献を行う際、活動内容を会社に申請することで、休暇を取りやすくなるよう支援しています。

● 健康経営

健康維持への意識を高めてもらうため、昼休みを利用して「ヨガクラス」を開催したり、体質改善を望む人々を対象に「適切な食と運動を学べるセミナー」を開催しています。



● 献血の実施

血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力し、社内で献血活動を行っています。

女性活躍推進

● 女性活躍推進法

女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としました。

目標1 「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

目標2 「労働者に占める女性労働者の割合」で20%以上という国の定める目安の値を中長期的な期間でも維持できるよう努力する。

平成28年度
採用実績 **40.7%**

平成29年3月末
実績 **25.1%**



マネジメント

人権について

この世に生きる全ての人間は性別、年齢、国籍、宗教を問わず、生まれながらにしてかけがえのない存在です。同時に全ての人が人間らしく生きる権利を持っています。この権利は全ての人に平等であり、誰であれ決して奪うことはできません。そして、この権利を社会全体で守り、尊重することによって多くの人々が自由に、そして平和に暮らせる社会が築かれていきます。こうした人間の権利、それが「人権」なのです。

フジテレビとして人権については、まず放送に当たり番組基準を定めています。その番組基準を基に、常に取材、番組制作、放送を心掛け、放送番組で人権を侵害することのないよう真摯に取り組んでいます。

「人権カレッジ2017」の開催

第1弾 2月6日「部落問題」終わらない差別

第2弾 2月14日「LGBT」見えないマイノリティ

第3弾 2月21日「障害者理解」本当のバリアフリーとは？

詳しくは17ページをご覧ください。



● 放送倫理手帳

放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。



コーポレート・ガバナンス

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるという使命を持っています。そして、テレビが国民にとって身近なメディアであること、よって社会に与える影響は大きいことを十分に認識し、放送内容が国民の基本的な人権を擁護するものとなるよう心掛け、放送の公共性を重んじ、もって社会的責任を果たしてまいります。

業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、並びに損失の危険の管理に関する規程その他の体制

(1) 当社の取締役及び使用人は、当社の経営理念・経営基本原則に基づいて制定したフジテレビ行動宣言を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。

(2) 当社は、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」(以下「コンプライアンス等規程」という)等に基づき、当社の社内体制の整備等を行い、法令・定款遵守の実効性の確保を図ります。

① 組織体制

当社の代表取締役社長は、「コンプライアンス等規程」等に基づき、当社の当該関連業務を統括・推進します。また、当社取締役・執行役員等を構成メンバーとするコンプライアンス及びリスクの管理等に関する委員会(以下「コンプライアンス等委員会」という)、及び中堅社員を構成メンバーとするコンプライアンス等担当者会議を組織化することによって、当社の経営及び事業全般に重要な影響を与えるコンプライアンス上の問題ないしはリスクへの対応を図ります。

② 教育・研修

当社は、適宜、社内説明会の開催や、イントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載などにより、当社の取締役及び使用人の当該プログラムへの周知と、その理解を促進する活動を行います。また、当社はコンプライアンス及びリスクの管理に関する定期的な社内研修を実施する他、コンプライアンス等担当者は各部署において、意識を高める活動を展開します。

③ 財務報告の信頼性

当社は、当社の業務が健全に行われるよう十分に配慮しつつ、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築に努めます。

④ 内部監査

当社は、「内部監査規程」に基づき、当社の全部門と当社子会社を対象として、会計及び業務に係る定期監査並びに臨時監査を行い、当該会社の業務全般が法令、定款及び社内規程に照らして適正かつ有効に行われていることを確認します。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社の取締役の職務の執行に係る情報については、これに係る当社の管理規程に基づき、その保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存・管理し、所定期間、閲覧可能な状態を維持することとします。

3. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役は、効率経営の確保に向けて、業務の合理化・迅速化等を継続検討します。

4. 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社及び当社の子会社（以下「当社グループ」という）から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制について、以下の通り、整備・実施します。

- (1) 当社は、当社の子会社の取締役及び使用人が法令、定款、社内規程及び企業倫理等を遵守した行動をとり、かつ、効率的な業務執行が行われるよう、「関係会社管理規程」等に基づく横断的な管理を推進します。
- (2) 当社は、当社子会社がその業容と会社規模に応じ、自律的にコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制の構築を推進するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクへの対応については、当社が状況を的確に把握する体制を構築します。
- (3) 当社は、親会社である株式会社フジ・メディア・ホールディングスとも連携を図り、子会社各社におけるコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制づくりを推進します。

5. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、監査役を補助する使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

当社の監査役は、監査役間の協議に基づいて、監査役スタッフを任命します。監査役スタッフは、監査役の職務の補助、及びこれに付随する事務を行います。なお、これら業務については、職務分掌において、当社の総務部が担当することを定め、監査役スタッフは当社従業員として当社の就業規則に従いますが、原則として、その指揮命令権は各監査役に属し、取締役は監査役スタッフに対する指揮命令権を有しないものとします。また、監査役スタッフの人事考課、人事異動及び懲戒等については、監査役の意見を徴するものとします。

6. 当社の取締役及び使用人、並びに子会社の取締役、監査役、及び使用人（以下本項において、「当社グループの取締役等」という。）が、当社の監査役に報告を行うための体制

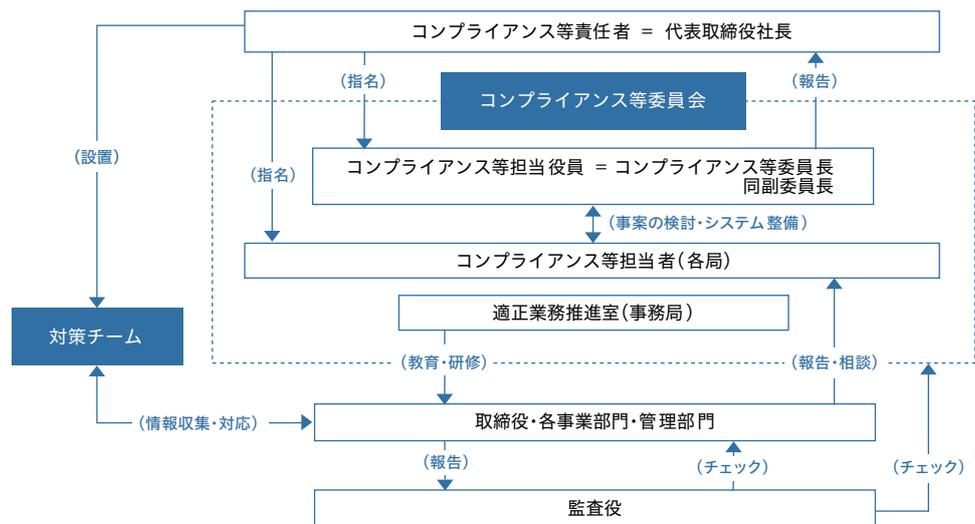
当社グループの取締役及び使用人等が、当社の監査役に報告を行うための体制について、以下の通り整備・実施します。

- (1) 当社グループの取締役等は、以下に定める事項について適宜報告を行います。
 - ① 業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実(当社グループ各社に関するものを含む。)を知った場合。
 - ② 取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実(当社グループ各社に関するものを含む。)を知った場合又は社会通念に反する行為が発生する可能性若しくは発生した場合で、当該事実又は行為が重大である場合。
 - ③ その他緊急・非常事態を知った場合。
- (2) 当社グループの取締役等は、当社の監査役に対し、以下に定める事項について定期的又は必要に応じて報告を行います。
 - ① 毎月の月次会計資料
 - ② 内部監査報告書及び各部門からの主要な月次報告書
 - ③ 重要な訴訟事案
 - ④ 内部統制に関わる部門の活動概要



- ⑤重要な会計方針・会計基準及びその変更
 - ⑥業績及び業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容
 - ⑦当社グループ各社における営業の報告
 - ⑧当社グループ各社の監査役の活動概要
 - ⑨その他重要な事項等
- (3)当社グループの取締役等は、当社の監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。
- (4)当社グループの取締役等が、上記(1)(2)(3)に該当する報告を当社の監査役に対して行ったことを理由として、不利益な取り扱いを受けることがないことを社内規程等に定めます。
- (5)監査役の仕事全般にかかる費用は当社が負担するものとします。

内部統制の仕組みは以下の通りです。



▼業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要につきましては、フジテレビホームページをご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html>

情報セキュリティ

フジテレビは、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。また、2016年度は特にサイバーテロによる個人情報流出に備えるため、ITリスク対応会議を発足させました。あわせて、フジテレビの個人情報の保存状況、管理方法等も調査し、体制を充実させました。

▼詳しくはこちらをご覧ください。
 フジテレビ情報セキュリティ基本方針 http://www.fujitv.co.jp/csr/management/security_basic_policy.pdf

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

2011年10月、東京都暴力団排除条例が施行され、これを受けて日本民間放送連盟（民放連）が「反社会的勢力に対する基本姿勢」を発表し、「出演契約における反社会的勢力排除についての指針」をまとめ公表しました。適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責任であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。フジテレビは、この民放連の「基本姿勢」と「指針」を遵守し、施策を講じております。

▼詳しくはこちらをご覧ください。
 「日本民間放送連盟HP」 <http://www.j-ba.or.jp/>

コンプライアンス

コンプライアンスの考え方として、フジテレビは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、全ての人が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現に努めることを掲げています。民主主義の原則を貫き、公平で平和な社会を守ること、そして自主自立・不偏不党の立場を堅持して、真実の伝達と品位ある放送の確保をはじめとする番組基準の基本原則をバックボーンとした「高い法令遵守の意識」「使命感」を持ち続けることを念頭に、社会からの信頼に誠実に応えてまいりたいと考えています。

▼ 詳しくはCSRホームページ内「内部統制」をご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html#internalcontrol>

フジテレビのコンプライアンス体制

フジテレビでは、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」に則り、コンプライアンス体制を整備しております。

フジテレビの取り組み

● eラーニング コンプライアンス研修

フジテレビで働く社員・全スタッフを対象(約4,300人)に毎年「eラーニング コンプライアンス研修」を実施しています。審査や法務、コンプライアンスの相談例を元に「具体的な問題」を多く導入、より実践的な研修を目指しています。また、2016年度は通常のコンプライアンス研修に加え、労務問題に特化したeラーニング研修も行いました。



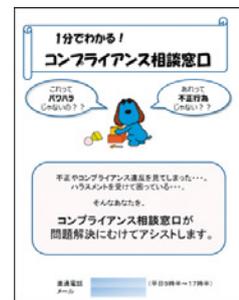
eラーニング コンプライアンス研修2017

● 番組制作向上ワーキンググループ

コンプライアンス等委員会に紐づく形で2014年9月に発足したワーキンググループです。制作現場に対して非制作セクションメンバーの“視聴者に近い率直な目”で、各番組の演出や具体的事例について意見交換を行う会議です。2016年度は5回開催し、番組演出やコンプライアンス事例などについて話し合いました。

● コンプライアンス相談窓口

2009年以来、法令違反、コンプライアンス違反の防止と早期是正を図るため、「コンプライアンス相談窓口」(以下、「相談窓口」という)を設置しており、フジテレビ社員だけでなく、フジテレビ局内で働く全ての関係者を対象とし、相談窓口担当へ直通電話もしくはメールにて通報できることとなっております。



リーフレットを作成して配布

● 標的型メールの体験型訓練

情報漏洩を防止するため、社内にて「ウィルス標的型メール」の体験型訓練を実施、社員への注意喚起を促しました。また、社員及びスタッフに情報セキュリティの重要性を啓蒙するため、2016年度もeラーニングで情報セキュリティ研修を実施しました。

児童・青少年への配慮

民間放送連盟では「青少年と放送」問題に関する対応策(1999年6月)を打ち出し、「青少年向けの放送番組の充実」を掲げ、民放連会員テレビ局各社は「青少年の知識や理解力を高め、情操を豊かにする番組を各放送事業者は少なくとも週3時間放送する」と申し合わせており、毎年その番組を選定しております。2016年秋にフジテレビが選定した番組は以下の6番組です。



▼ 詳しくはこちらをご覧ください。
 「日本民間放送連盟HP」<https://www.j-ba.or.jp/>



但木 敬一 | 弁護士
ただ き けい いち

1943年生まれ。東京大学法学部卒業。
法務事務次官、東京高等検察庁検事長などを経て、2006年検事総長。
現在、森・濱田松本法律事務所 客員弁護士。2014年10月より、フジテレビ番組審議会委員長。

フジテレビが存続するための必須条件。まず第一に、テレビを見てくれる視聴者がいなければ話にならない。第二に視聴者に正確な情報を伝え、笑いや涙や感動を届けるために働く多種多様な部門の質の高い社員が必要である。さらにフジテレビの番組を制作している関係会社の社員の人も同様である。次に、民放である以上、スポンサーがいなければ経営が成り立たない。基本財産は株主が支えている。映像に映し出される沢山の俳優、女優、歌手、タレントそして被災地の人々、市井の老若男女。今や世界中の指導者も市民も毎日画面に登場する。フジテレビという企業は、かくも大きな輪の中にあり、幾層ものステークホルダーの支援によって生かされているのだということが解る。

ヨーロッパ風のCSR観に立てば、これらのステークホルダーの持続的発展を図らねばならないのであるから、フジテレビはとてつもなく大きな社会的責任を負っていることになる。その責任は原則的には本業の使命を全うすることによって果たされる。アフリカに飢餓に苦しむ子どもたちの姿があれば、それを報道するのがメディアの使命である。その情報を視聴者に伝えることによって、視聴者にアフリカの現実を知ってもらい、世界の、我が国の子どもの貧困問題を考えるきっかけを作れば、映像に登場してくれた子どもたちへの責任、視聴者への情報伝達という社会的責任を果たしたことになるのではあるまいか。

そんな目で本報告書をみると、座談会「真に求められる災害支援のあり方とは」が素晴らしい。昨年4月に発生した熊本

地震の被災地の町役場の課長さんを囲んで、CSR推進室の担当者はじめ被災地支援に直接かかわったメンバーが、被災した人たちに寄り添い、そのニーズに応える支援とは何かを、テレビの設置、温かい食べ物の提供などを通じて具体的に語り合っている。あったかいものを食べたり、アニメを見たり、避難所生活を強いられている人にとって日常生活を取り戻すことがいかに大事かを教えられた思いがした。亀山社長が「トップメッセージ」の中で触れているように、東日本大震災以来、「ずっとおうえんプロジェクト」をずっと続けてきたことが、フジテレビの熊本支援活動が公的表彰を受けるほど見事にできた基盤ではないでしょうか。

本報告書には「あなせんプロジェクト」や「ハロー！どっこくん」など子どもたちへの取り組みが掲載されています。未来の視聴者が健全に育つように活動することは、フジテレビにとって大切な未来への投資。紹介されている人権やハンディキャップへの取り組みは、公正で多様性を認め合う健全な社会を目指すCSRの戦い。フジサンケイグループの大きなテーマは地球の健全性の確保。健全な地球の持続性は、人類にとって、フジサンケイグループにとって、不可欠の前提条件。最後に本報告書が取り上げているのは、視聴者とのコミュニケーションと一人一人の社員の質の向上や労働環境の問題そしてコーポレートガバナンス。これこそ視聴者やスポンサー、株主、債権者、市民を含めた映像に登場する人々など様々なステークホルダーに向けた、フジテレビの持続性を示す大事なメッセージではないでしょうか。

ご意見を受けて



遠藤 龍之介
えん どう りゆう の すけ

CSR担当
専務取締役

貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず初めに、「テレビは視聴者がいなければ話にならない」「幾層ものステークホルダーの支援によって生かされている」という、基本的かつ根幹を支えるご指摘に、改めて身の引き締まる思いです。今回、本業を活かした様々なCSR活動を紹介する中で、特に普段の日常生活を支える継続的な被災地復興支援活動を評価して頂いた事は、大変ありがたく思います。テレビ放送は相手の顔が見えない仕事ですが、私たちが取り組んでいるCSR活動では相手の顔を見て実際に触れ合う活動が大切だと考えています。そうした経験を通じて、社会課題の解決に対する放送局らしい取り組み方を発展させるとともに、ステークホルダー、次世代の人たち、そして未来の社会に対して私たちが貢献できる事は何かの、引き続き考えていきたいと思えます。視聴者に愛され支持される放送局として存続するためにも、フジテレビらしいCSR活動をさらに充実させていく事に邁進してまいります。

持続可能な開発目標(SDGs)

2015年の9月に国連で開かれた「**国連持続可能な開発サミット**」で、「**持続可能な開発のための2030アジェンダ**」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかかげました。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「**持続可能な開発目標(SDGs)**」です。



- 目標1：あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 目標2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 目標3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 目標4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 目標6：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 目標7：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する
- 目標9：レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
- 目標10：国内および国家間の不平等を是正する
- 目標11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
- 目標12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 目標13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 目標14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 目標15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 目標16：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標17：持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

会社概要

商号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 TEL:03-5500-8888(大代表)
設立	平成20年10月1日(新設分割による)
放送開始	昭和34年3月1日
資本金	88億円
従業員数	1,340名(2017年3月31日現在)

フジテレビCSRレポート2017
2017年6月19日発行

ホームページでもCSRの取り組みを開示しています。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

